

豊かな学びを支える「体験活動支援部会」

生活科や総合的な学習の時間では、身近な課題を立ち上げ、探求し、協同的に解決していくが、その際には体験活動を伴う豊かな学習活動を展開したい。そのために、応援団の方々の理解や協力が不可欠であり、それらがあればこそ仕組める活動である。

今年度、6年生は社会科学習の発展として茶道体験や水墨画体験を取り入れ、わずかな時間ではあるが、伝統的な日本文化に触れる機会を持つことができた。5年生は、ここ数年間継続して、稲作の学習で、田植え・稲刈り・脱穀の体験をしている。また、2年生の生活科での地域探検では商店の見学が主であるが、子どもなりの擬似職業体験ができる準備をしてくださるところもあり、子どもたちにとって地域（ものやひと）と出会うばかりでなく、職業観形成の土台作りにもなっている。

地域の応援団の方々に来校してもらっただけでなく、学びの場を学校外に広げ、子どもたちが地域に出かけていくことも増えている。応援団の方々が温かく迎えてくれるのを児童も肌で感じている。本当にありがたいことである。「ホテル愛育」の活動は、活動をしてきた子どもは、卒業したものの、その子どもたちの兄弟姉妹などを中心に「ホテル祭り」の運営への参加という形で、活動が継続している。



2年生のお店探検。

たくさん並んだ薬に驚いたり、わかりやすい説明を聞いて、とても勉強になりました。薬の大切さがわかりました。

美容院では、実際に髪の毛を結ってもらいました。美容師さんの仕事ぶりに、大きな目を見開いて、よく観察していました。本当に、自分たちが住んでいる地域には様々なお店があるんだなあ実感しました。



1・2年生の生活科では、野菜作りの名人登場。なすやキュウリやミニトマト、さつまいもなどの苗の植え方・育て方・収穫の時期などの指導をしてもらい、土や農作物への愛着が低学年なりに芽生えている。



西小の伝統「双葉音頭」への取り組み。応援団の方が行う、1年生保護者や職員向けへの講習会は西小の恒例行事となっている。



1・2年生児童の双葉音頭の練習にも応援団の方に来校を依頼し、細かなところもわかりやすく指導してもらった。



5年生の田植え体験学習。毎年継続して応援団の方が、熱心な指導をしてくれている。



自分たちが植えた稲を鎌で刈り、脱穀も体験。泥の中に入っの田植えに続き初めての体験は子どもたちにとって大変貴重。



2年生は、生活科で育てたミニトマトを使いサラダを作りました。大勢の保護者のボランティアの方が手伝ってくれました。



6年生は、双葉支所にある、戦没者慰霊碑の見学をしました。地域の遺族会のかたに説明をしてもらいました。

